

●れんさい競作リレー漫画—⑯

猫じやらし

「ねこ小僧次郎吉伝」

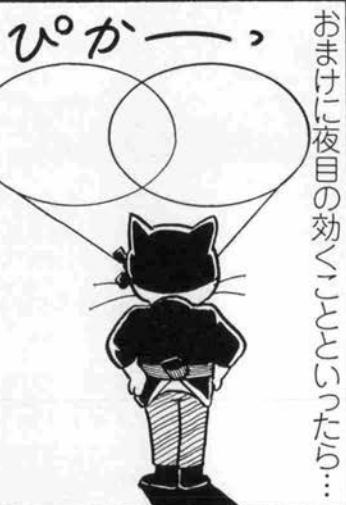
ラッキー植松

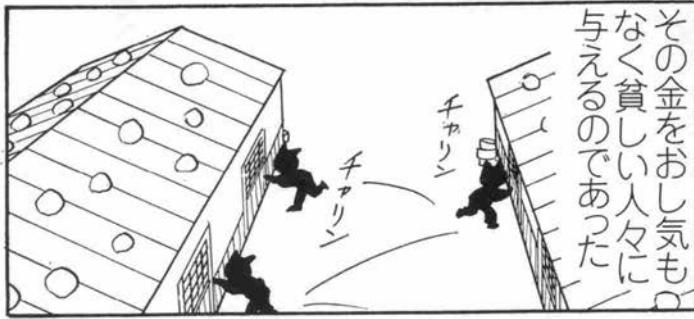


彼は生まれついての
盗みのれついての
あるてついで
いたテクニック



江戸の昔
ねこ小僧次郎吉
といふ義賊が





淀川長治
映画評論家



クラシックよみがえる

『ペレ』を見つめて…

少年の頃、それは大正十年のころ、私は農民文学に読みふけった。おもての座敷の二階で、うちの芸子が「勧進帳」の三味線のおさらいを繰り返しやっていたとき私はその三味のバチさばきの音色を聞きながら長塚節の「土」の農民文学に読みふけた。私が、いま谷崎文学と深沢七郎文学を同時に愛するのはこの少年の育ちからではあるまい。

いまデンマークとスウェーデン合作の「ペレ」（一九八七年作・二時間三〇分）を銀座の和光のうらのフランス映画社がよく使うこじんまりした豪華な試写室で見てきたところだ。いまから一〇〇年前の話でスウェーデンからデンマークのボンホルム島に出かせぎにきた人たち、というよりも食うに困った貧しい労働者たちのその群れにまじって九才のペレともう老人と言いたいペレの父親がスウェーデンからやって来て、雇い主を探すところから映画は始まってゆく。この親子は、パンにバターをぬることと、酒が気がねなく飲めること、その夢を求めてやつて来たのだが、子持ちの老人など、雇い手はない。親子はその漁村の港の石だみの上に立つて抱き合う。いまから一〇〇年前と言えば明治二十二年。ふと日本の労働者のブラジル行きその始まりの頃をも思う。

映画は食つてゆけぬ父と子が、どうやら雇い手を見つけ馬小舎に薬たばをベッドに、これがこれからの親子の物語。よれよれのしみだらけのシャツが痛ましい、このペレの老父（マックス・フォン・シドウ）が見事な演技を見せる。打ちひしがれて一杯の酒にありつくだけで、その一日をありがたがっているこのペレの父が、ペレを産んで五年目に死んだ妻のあとは、ずっとやもめを通して、いや、通すよりも後妻など貰うぜにのあるわけもなく、いまもペレを抱きしめて眠りながら、死んだ妻のことが皮膚に思いを伝え、この老父はこの島の後家を心の奥で狙つたりもした。ペレはやっと学校にゆく。『やい、スウェーデン野郎』と学校でいぢめられる。私はデンマークがこのようにスウェーデンを馬鹿にしていることでびっくりした。映画というものは歴史や地理のペジから生きた血と肉のなまの匂いを伝えてくれるものなのだ。それは教科書の活字では得られないなまなましさがあるものなのだ。イギリスっ子がアイリッシュを馬鹿にしたことでも映画で知ったがデンマークが明治時代にスウェーデンを馬鹿にしたことはまったく知らなかつた。もつともこの映画はスウェーデンの貧農が食うに困つてデンマークの小さな島に出かせぎに来たということで、その出かせぎ者を馬鹿にしたのかもわからぬが、馬鹿にされたペラが「死んでやる、おまえら見ておれ」と学校の仲間たちの目のままで、氷の海の中へザブザブと這入つて少年たちを噛みとさすシーンのその氷がいっぱい浮い

てゐる海の水のその冷たさが見事なキヤメラ（ノイエリエ・ペルション）で映画ならではの実感を出した。

デンマークの小さな島のその島に住む人たちの生活が、ときになまぐさく、セクシイに、ときに貧者には冷酷なる目で見つめた古き時代のその村びとのスケッチに、この映画は悲しい貧しいその父と子を見せて、思わず「木靴の樹」を思い出させたが、あの映画では貧しくて靴も買えぬ小学生のわが子に父が夜を明かして木をけずり靴を作つてやるというクライマックスがあつたが、この「ペレ」は二時間三〇分、クライマックスといううのを持っていないのが心にひつかかり、それが二時間三〇分、いっさい画面から目を離させぬだけの力を持つていることで、この映画の監督のビレ・アウグストの演出スタイルに注目した。この監督は一九四八年デンマーク生れだから今年まだ四十一歳である。それなのにこの老大家振りはおそろしい。しかし初めに述べたペレが氷の浮いた水にズブズブと這いつ込むシーンひとつを見ても実にその感覺はするどく、この監督が記録映画あがりのことと見て「目で見る映画」の精神を身にしみこませていることがわかるのだった。一九七八年から短篇をとり「ペレ」はこの監督が劇場用の映画を一九八三年に初めてとつてからまだ四本目と知つた。そうであらうまだ四十一歳なんだもの。



私はこの映画の老父に扮したマツクス・フォン・シドウの名演にひざのりだしたが、一九八七年度のアカデミイ賞ノミネイトでマツクスの名があがりながら、入賞（主演男優賞）が「レインマン」のホフマンだったことで意外とさえ思えたほどだった。

デンマークは活動写真が誕生した初期アメリカ、フランス、イタリア、ドイツとならんでその製作は盛んである、大正初期、私は小学二年生のころ、早くもデンマーク映画、そのノルジス会社のマーク（白熊）まで覚えていたのであった。デンマークといえばあの名監督のドライエルもデンマークそしてついこのあいだの「バベットの晩餐会」もデンマーク。再びこの国の土の香りをしみこませた農民映画「ペレ」を見て逆に今の豪華な都会感覚映画のなかでのこの大クラシックに、モダンをさえ受けた。

ひとつ・いん



★洋菓子天国KOBEx

居留地文化からの贈り物、村上和子さんが選んだ洋菓子神戸の神様達23名の作品が揃いも揃った。

5月3日から7日までの5日間、大丸神戸店7階で催された。「Château」、「母の日」、「春風駘蕩」等本当ににお菓子なの?と感心至極の精巧な作品や「KOBEx」等、許されるなら一口試食したい位おいしそうな作品群は、居留地文化というハカラな文化を上手く育んできた神戸ならではのものといえる。F・ビゴ氏、F・モロゾフ氏等、洋菓子の神様達の技は5万3000人以上の洋菓子天使達を大満足させた。



一口味わいたいお菓子。

★神戸風新イタリア料理を

洗練された大人の雰囲気と本格的な味のプロフェッショナルが6月度で周年を迎える。明石の海の幸、神戸ビーフ、と選りすぐった材料



福田シェフ(左)が心をこめて作ります。

3丁目との間にある道を西へ少し行くと、山側に日本ビル。夕暮れ時、その地下にある「杉鮨」へ入ると、カウンターは常連さんで満員だ。杉のお兄ちゃんこと上川重樹さんが、美味しさを存分にアピール。うなぎの山下のお姉ちゃんの顔を見てお酒の量も加減する。「ここのお巻きは名物や」とお隣りさん。初めてのお客もいつの間にかおなじみになってしまいます。



美味しい上川重樹(右)さん

一年記念のメニューは6月15日から17日の3日間で7千、8千円(税別)の2コース。ウナギなど初夏ならではの味覚を使つた極めつけのコース料理、シェフ手書きのメニュー、プロフィードラスをプレゼント。

★メキシカンの風味を!

内容的にもお得なこの機会をお見逃しなく。

■中央区元町通3

■12日国ビルBF



■「ヌーヴェール」の希望の方は、住所・氏名・電話を記入の上、〒650-8501 大阪市中央区東町1-1 大阪ビル9F 月刊神戸でどうぞお申し込みください。

■中央区加納町2-5-1 布引ビル
11B 1F。電 261-2620
30 30 30 14 30 17 00 22 30

★アットホームな

杉鮨の味空間

阪神元町駅を南へ。元町

三丁目との間にある道を西へ少し行くと、山側に日本ビル。

夕暮れ時、その地下

にある「杉鮨」へ入ると、

カウンターは常連さんで満

員だ。杉のお兄ちゃんこと

上川重樹さんが、美味しそ

うな童顔で、いらっしゃい

!」「うち、家の台所で毎

日食べててるような気分で、

魚料理や、お鮨を食べられ

るからエネン。その上、

安いから毎晩でもOKや」

とコンビの山下のお姉ちゃんのサービスは、常連さん

の顔を見てお酒の量も加減

する。「ここのお巻きは名

物や」とお隣りさん。初め

てのお客もいつの間にかお

なじみになってしまいます。

飲食店

発売中!

飲みやすさが新しい。

買いやすさが新しい。

扱いやすさが新しい。

という3つの新しさと

スラリとした風のイメ

ージで、口当りも柔ら

かな「ヌーヴェール」

を赤白各1本合計2本

を読者6名様にプレゼントします。

愛読者のみなさんへ

おいしいプレゼント

ヌーヴェール

ワイン
「ヌー
ヴェ
レ
ー
ル」
が、新
しい。

飲み
やす
さ

二十周年を迎えた(ティフ

ニア)は、今までよりも
ゆったりとしたスペースを
とつて木造りのテーブルと
椅子に白亜の壁が、よりメ

キシカンの香りをただよわ
せている。おすすめのメニュー
はトルティーハ(10
0円)、パエリア(ソフト9



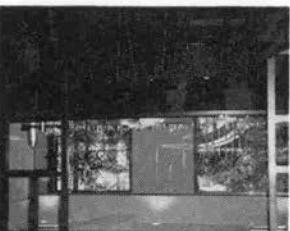
和気あいあいのスタッフ!

■ニューフェイス
PEARLS JEWELRY
&
BAR

中央区北野町3-2-5 BKフ
ラザF 電 03-3210-0488
AM 11:00 ~ AM 2:00

セレジエ

ハンター坂を登りつめ
た異人館俱楽部の右側、
BKラザ1Fにめざす
バルズ・ジュエリー&
BAR „セレジエ“があ
る。まずゴールドとバー
ルの眩しい光輝くショ
ールームが、目に飛びこん
でくる。その奥がプラッ
ク&レッドでトータルコ
ーディネイトされ、落ち



ムード漂うカウンター

ついたムードを漂わせるス
ペースがあり、またカウン
ター背後のガラス張からの
自然光がより一層不思議な
世界を醸しだす。この店の
売り物は、やはりジュエリ
ーのついたカクテル
だ。

★カクテル・ランデブー
洋館・OCTOBER 14。
クラブなどの新鮮なシード
ク夜景と共に味わうロマン
チックタイム。アフターデ

■中央区中山手通1-21-13 バー
コーポラスビル1F 242-100
4:30 PM 5時~AM 1時

どうか。
魚介類メニューもふえ、初
めての方にはコース料理
(5000円~8000円)
を、ドリンク類はテキーラ
ベースのマルガリータ、サ
ンライズ、ノンアルコール
ではNARANJAを一度
試みてみてはいかがでし
よ。

00円、ハード8000円)、

魚介類メニューもふえ、初
めての方にはコース料理
(5000円~8000円)
を、ドリンク類はテキーラ
ベースのマルガリータ、サ
ンライズ、ノンアルコール
ではNARANJAを一度
試みてみてはいかがでし
よ。

■中山手通2丁目の山手幹
道。時がたつにつれ、ダ
イナーをパークウェンター
クカラードといつた、それぞれ
光を増して浮かび上がるよ
うに輝やく。こんな夜のお
相手は“ブロンクス”“ク
ロー・バー・クラブ”などの
ソフト・カクテル。林檎ブ
ランデー・カルバドスをベ
ルードといつた、それぞれ
本物のジュエリーが入り
彼女の心を引きつける絶
好の演出効果になるのは
うけあい。

また6月のパールフェ
アにちなんだ企画も盛り
沢山、来店された女性客
全員にパール缶をプレゼント、
バースデイには、
シャンパンと記念フォ
ト、そしてオリジナルジ
ュエリーを女性にプレゼント。
その他レディースディ
イ(毎月曜)、レインボーデ
イ(毎月曜)、リラックスが5月
10日オープンした。

和氣あいあいとした雰囲
気と、美人ニユーハーフの
ママ、理羅さんの愉悦いお
喋りが特徴のお店で、本當
に飽きることがない。

客層も女子大生グループ
から会社の社長まで、マ
マの豊富な経験談と愉快な
お喋りの内容がうかがえる
一度は入ってみたいお店。

■中央区中山手通2-10-5
ホルキビルF 電 03-3210-1666
6月は年中無休

14"も優しさに満ちた夜を
演出してくれる。

■中央区北野町2-18-2 AM
10:00~PM 11:00 (ラストオーダー)
第三火曜休 3月24日
6月11日

お喋りが愉しいバーで
リラックスして!



カクテルな夜



愉快なママの理羅さん



大森監督も全力投球

ポケット ジャーナル



★「花の降る午後」クラシック

イン記念バーイー開催

神戸を舞台に繰り広げられる映画「花の降る午後」がいよいよクラシック。これを記念して、5月16日ホテルゴーフルリツツにおいて、クラシック記念バーイーが開催された。

“花の”はフランス料理店を経営する未亡人と青年画家の恋を中心、店の乗組りを計る悪女との対決を盛り込んで展開されるラブサスペンス。バーイーには主演の古手川祐子さんはじめ、高嶋政宏さん、大森監督、原作者の宮本輝さんなども姿をみせ、映画の雰囲気を盛り上げた。

市勢の発展と市民福祉の向上を願って、神戸港の築港から、教育、福祉、医療などの充実のため力を入れて来た神戸市会が今年百年を迎える。その足跡を年表にまとめ、「明日の市政を展望するよすがになれば」との望いを込めて編集した「神戸市会百年」が完成。

年表には貴重な写真も多数挿入されており、見るだけでも楽しいものになっている。

発行部数が少いために市販はされないが、市役所市政情報室、区役所、図書館市内各中学校、高校、大学などに置かれるので、閲覧も出来る、とのこと。お問い合わせは、神戸市役

★『闇の巨匠』ルドンの世界を心ゆくまで

伊豆マムの手

近代絵画史上さわめて重

要な位置を占める画家、才

ディロン・ルドンの作品を

集めた「ルドン展」が兵庫

県立近代美術館で開かれて

いる。

一八四〇年、フランスの

港町ボルドーで生まれたル

ドンは、モネや

ノワール、ルノワールら

が見渡すところの「印象主義」に対する反



ルドンの女
モネや
ノワール、
ルノワールら
が見渡すところの
「印象主義」に対する反

発として象徴主義と呼ばれる動きの一翼をないつつ、特異な幻想的世界を展開した注目すべき巨匠。

今回はそうした画家特有の幻想的世界を「光と闇」の対立なし共存としてと

らえ油彩、水彩、木炭、パステル画その他の諸作品二百五十点を「怪物」「天使」の対立なし共存としてと

魅力を堪能できるよう構成されている。

所内の神戸市会事務局まで

誕生日ありがとうございます



人の役割

人は誰でも一つの役割をもってこの世に生まれ、その役割をまとうとして世を去るといわれます。

三歳のころ高熱に見舞われた静子さんは中枢神経が冒され沈黙の寝たきりの状態になってしまいました。お母さんは静子さんを背負い、病院や診療所を訪ねまわりましたが効果はありませんでした。

三年間の暗黙の家庭。励ましたお母さんは華道を教えて生徒を発見してから、家庭に時々笑いが戻るようになり、静子さんも応えて微笑するようになりました。

天使のように純粋な笑顔に触れた人々は、何となく自分の心を反省するそう。坂に木戸口が造られ、そこを入ると縁側に寝ている静子さんが見えます。「静ちゃん」と呼びかけると彼女はニコニコと笑い、その笑顔が人を元気づけるのです。評議会にて多くの人が訪ねました。中学生や高校生が自発的にリヤカートに彼女を乗せて公園を行ったこともあります。

成人式を迎える彼女は近所の人達のカンパで晴れ着を着せてもらいました。そしてみんなと一緒に撮った写真を残して三日後に、彼女は天国に迎ったのです。

僅か二〇年の生涯でしたが、葬儀には四〇人以上も参列しました。欲望に振り回される現代社会に、神が遣わされた天使かもしれない静子さん。

ア別に陳列、ルドン芸術の魅力を堪能できるよう構成されている。

51 神戸市中央区御幸通八一
神戸国際会館階郵便局の隣

○七八一三三一二二一四

★地球人の贅沢

健康をコントロールし、肉体を動かす愉しさ。6月10日、石屋川にグランド・オーブンする。

J&G ツネスクラット



EARTHLING
J&G
ツネスクラット

■酒井町1丁目2-31
☎ (078) 811-7010

■新作ビデオ情報

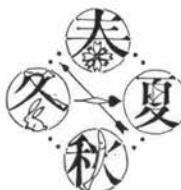
★エーゲ海そしてある人生

は自分自身のLIFEを快適にする素敵な資源が存在する。

プール、サウナ、エステティック等の充実した設備は、「健康であること」以上に、心の健康やくつろぎを満たしてくれる。又、ビル

20世紀初頭、オスマントルコ帝國末期に、帝国より監督による「バスカリの島」エーゲ海のある島へスペイ

花時計



「神戸まつり」考

久しぶりに快晴の「神戸まつり」となった。朝早くは泣き出しそうな曇空であった。が、本番のパレードは青空になつた。

いろいろな趣向をこらした花車が続き、音楽が

「神戸まつり」考
今年が十九回目。来年はいよいよ第二十回目の神戸まつりを迎えることに

と盛り上がりが違うことを実感した。

さて「神戸まつり」は

現在の「神戸まつり」には夜の行事がないことを、地元紙も取り上げて実現していくのか、この辺でもう一度「振り出し」に戻して骨組みを再構築しては。

△Y\

のデザインをアメリカ人が担当。クラブスタッフには

アメリカ、オーストラリア、日本人を起用するなど

地球サイズの展開。KOB

Eならではのロケーションで実現した贅沢。肉体も精神もベストに。

■酒井町1丁目2-31
☎ (078) 811-7010

■新作ビデオ情報

★エーゲ海そしてある人生

大ヒット映画「危険な情事」の脚本を担当したジエラーム・ディアダン脚本・

監督による「バスカリの島」エーゲ海のある島へスペイ

フライロードに響きわたる。そして、ひときわ冴えるのがサンバのリズムである。「やっぱり天

気やと爽やかで気色がえわ。せやけどちよつと暑いわ」と汗に濡れながら激しいサンバのリズムに合せて踊るムレ、群衆。

やつぱり、天気がいいと盛り上がりが違うことを実感した。

さて「神戸まつり」は

今年が十九回目。来年はいよいよ第二十回目の神戸まつりを迎えることに

として派遣され、生活を送っている男バスカリ。ある

日彼の前に怪しげな英国人が現われ、その男を調べて

いくうちに、大国間のかけ引に振りまわされ、やがて悲しい結末が…。あくまで美しいエーゲ海を前に

して、彼の人生のむなしさが、いやがうえにも際立つ

てくる。「ガンジー」でアカデミー主演男優賞に輝いたベンキングスレーがさすがの演技。東芝映像ソフト

1 (代)
「ガンジー」でアカデミー主演男優賞に輝いたベンキングスレーがさすがの演技。東芝映像ソフト



の宣伝ベースの参加が増えたな」。企業参加で祭りが華やかになるのは賛成だが、あまり安易に参

加して、雰囲気がこわれるものかなわんなどなど——現在の「神戸まつり」自身の洗い直しも必要だろう。

現在の「神戸まつり」には夜の行事がないことを、地元紙も取り上げて実現していくのか、この

辺でもう一度「振り出し」に戻して骨組みを再構築しては。

●KOBE POST

★ホテルオーラクラ神戸 (650兵庫県神戸市中央区波止場町2番号・代表取締役社長大石邦雄) は、6月22日よりOPEN。開業前に6月16・17日お披露目の宴が開かれます。☎ 078 (33) 0111 (代)

宮町1丁目4ノ15本社☎ 078 (24) 2125 (代) 内販事業部

☎ 078 (22) 6112 (代) シヨールーム☎ 078 (22) 588

1 (代)
★あの子達(チンパンジー)の声が聽こえる動物園近くに住んで39年、あと1年を余す女房の古里(西神)研究学園都市緑丘へ帰りすることになりました。と龜井一成・泰恵子夫妻からの便り。

★神戸新聞社芸芸部の草野拓郎さんが5月8日で退職。55才の新瀬タトです。☎ 078 (22) 11西宮市塩瀬町青葉台254番地☎ 0797 (84) 06

99
★6月20日21日と、生田神社会館2Fロビーにおいて、望月美佐さんが「平成元年日本列島縦断」書の心を拓くと題した展示会と21日6時から発生バーティを4Fホールで開催料金は1,500円(トロピカルディナー)、お土産美佐扇面作品/プログラム/沖縄訪問を前にして「笛・藤倉雅峰/舞・中村米子で動く書を。金沢東廊お座敷太鼓」ハワイの旅の報告など多彩。お申込みは望月美佐の会事務局☎ 078 (51) 7084

★有限会社山本ビル(代表取締役山本萬一)が、創立10周年を7月に迎え感謝賀電を、7月4日(火)6時より神戸ポートピアホテルで開催されます。

★大阪府立大学教授の小室豊允氏が4月1日より姫路独協大学経済学部情報学科教授として就任されました。〒792市上大野7丁目自転車(23)(85)035221

心の風景

〈3〉

若返りダンス

高橋

孟
（マンガと文）



熟年が集まつて「イキイキ生きるにはどうすればよいか：」というディスカッションがあつた。ある元気な熟年の方が「みんなダンスを習いましょう」という。私は「大いに結構」といったものの、さて、ダンスといつても爺さん婆さんが抱き合つて踊つたところで、健康にはよろしかろうが、それだけでは物足りない気がした。やはり、イキイキするには、相手は若い人であつて欲しいと思ったのである。

ダンスに限らず、ゲートボールにしても同じで、老人ばかりが群れていても古い雰囲気を搔き混ぜているだけでイキイキした感じは出ない。出来れば若い人も参加してもらおう工夫がいる。

そのうち、福祉政策も様変りして、全国にさきがけ、神戸市あたりが、補助金を出して、熟年が若い人に接触出来る施策を考えてくれるかもしれない。たとえば、神戸市指定の「若返りスマック」があり、老人手帖を持つていけば三割引きで、カラオケからダンスサービスがある。そのかわり、高齢者も、極力若々くりに努力するエチケットがいる。老人手帖には、現在の貼付写真的他に、自分の若かりし日の写真を貼付して、ダンスのときはパートナーに、その写真の方を見て踊つてもらう気遣いを忘れないようにするのである。

全国葬祭事業協同組合	神戸葬祭事業協同組合
本社／神戸市長田区松野通1-11-12	本社規格葬儀取扱指定店理事
☎ 078-621-0089	☎ 078-592-15485
鈴蘭台支店／ ☎ 078-592-15485	鈴蘭台支店／ ☎ 078-592-15485
全効率認定「葬祭専門士」資格取得者	葬祭専門士
株式会社 大谷徳	株式会社 大谷晃世

モルダウ川の 七色の夜

森 榮枝

画／石川晴久

HARD



プラハからコノピシュチへの道は深い霧の中だった。地形的に、河川の集まる盆地だから、この辺りでは濃い朝霧はいつものことで、特に秋の季節は深くなるらしい。アウトバーンは十メートル先もよく見えないが、先行車も対向車もないから気持よくとばせる。バスは、大きな体をゆすって走る。ニシダが、

「そんなにとばして大丈夫？」
と心配顔をするが、これだけ空いているのだから対向車との正面衝突は考えられないし、万一先行車が見えればただちに徐行できるという自信があるからとばしているのだ。山道へかかり、カーブが続くのでスピードを落とす。ニシダはほっとした顔になる。山の上は寒い。

コノピシュチ城は、オーストリア皇太子フェルディナンドの城。マリア・テレサもよく訪れたという。城砦ではなく居城であるから、華麗に、ぜいたくに造られている。

円形の塔と四角な居室の連なりをうまく配置した優美な外観、パロック風の天井画、ロココ風の室内調度、タペストリー、外で火を焚き室内には煙も臭いも入らず熱だけが伝えられるという美しい陶製のストーブ。大広間いっぱいに蒐集された膨大な量の武器は、ほとんどが実用品ではなく、人に見せるための美術品である。窓からは、孔雀の遊ぶバラ園のあちこちに建てられた数々の彫像が見える——はずだが、今日は霧で見えなくて残念。何より驚かされるのは「王の獲物」だった。

フェルディナンドは殊の他狩が好きで、生涯に三十万匹の鳥獣を殺し、その一つ一つに獲った場所と日付のプレートをつけ、城のいたる所に飾った。

例えば、長い廊下いっぱいに掛けられた何百頭分の鹿の角、天井からびっしり吊された何千羽の鳥の剥製、広い踊り場に立ち並ぶクマの剥製、階段の壁に折り重なつて張りつけられた野牛の皮、ガラスケースに入れられたおびただしい牙や爪のコレクション、その他、リス、兎、狼、狐、など、壯觀というよりは氣持が悪い。

生き物を殺すことがそんなに楽しかったのか。この王は日本へも行ったことがあって、その時も日本の獣を狩りたいと望んだが断わられたという。

王の居間に一匹のクマがいたが、これは王に狩られなかつた唯一の例外。庭に大きなクマ舎があつて、この城ではいつもそこに伝統として一頭のクマが飼われている。今も一頭いるが、居間の剥製は、今、生きて飼われているクマの母親だそうだ。

城館の下の森を通つて、バスター・ミナルまで下る。ブナやケヤキの大木が霧に包まれ、道もすぐそこまでしか見えない。歩くにつれて、その先に何が現れるかと期待しながら下る。山裾を巡りながらゆるい傾斜でつけられた森の中の散歩道には大きなドングリが散らばり、どこからか水が引かれていて、小道添いに流れたり、横切つて橋の下の小さな滝となつたりして変化を楽しむてくれる。

下草の茂つた所には、リスや兎がかくれていそうだ。ここなら鹿だつているかもしない。フェルディナンドも、自分の庭の獣は殺さなかつたであろう。

日本人の女が、そばを歩きながら、ハインツの方を見て話しかける。ニシダが通訳してくれる。

「赤ずきんちゃんの話って、ドイツの子どもたちは、皆知っているんですね？」あれ、日本でも有名です。私も小さい時、聞きました。でも、その中に出てくる「森」のイメージが、もひとつ分からなかつたんです。きっと、こんな所だつたんでしようね」

「残念ながら、ここはよく手入れされた城の庭です。北ドイツの自然の森はこんなものではありません。もっと暗くて淋しい所です」

「そうですか、でも、この、日本とは種類の違う樹木を見ただけでも、その森が想像しやすくなりました」

コノビ・シユチからカール・シユテイン城へ向かう道を走っていると、霧が動きはじめ、見るまにすうすうと晴れ

上がつた。静かな夜明けの薄明から急に昼間の活動的な世界に入った気分だ。山小屋風レストランで昼食をとる。城は、ここでも山の上にあるが、こちらは岩として造られたものだから足元は岩山だ。道も急坂で、あえぎ登る感じとなる。

ハインツは以前に一度登つたことがあるので、今日は下で待つことにした。バスター・ミナルは城の真下にあるから、日本人たちが登つて行った道を逆の方向へ少し歩くと、城の全体が遠望できる。

ボヘミア王が13世紀に建てた城で、コノビ・シユチ城のような派手はないが、灰色の切妻形の屋根を持つ建物群、矢狭間の並ぶ城壁、見張塔、飲料水を確保するための水槽などと谷へ向かつてのびた土壁、その先端にある泉を守る砦など、実質的、実践的に均整のとれた建造物で、又違つた美しさがある。

城は、外から見れば美しく、王子や姫君の住居として人民たちの憧れであつたが、内には常に血なまぐさい歴史を秘めているものだ。ボヘミアには美しい城や砦が多く、今は観光ルートになつてゐるが、よく聞けば、この石畳の汚染は大臣が殺された時の血の痕だとか、この石段は王が首を打たれた時、剣の勢い余つて欠けたとか、そんな言い伝えも珍しくない。

コノビ・シユチのフェルディナンドは、一応戦乱の治まつた世に、権勢ゆるぎないハプスブルグ家の皇太子として生まれ、戦争に明け暮れた先祖の王たちから受け継いだ荒々しい血のたぎりをおさえかねて、あわれなケモノたちに向かつたかもしれない。三十万匹のケモノは、食肉として実用にもなつたのだろうか。

くさむらの中の石に腰をおろして、城の眺めと、暖かくなつてきた日射しを楽しむ。

（この城もカールだな）

自然にわが家のカールへと思いつながる。
出発前の、言い出しにくい時に、バーバラがあえて口にしたのは、きっと何か急ぐ理由があつたのだ。

例えは、学園祭の舞台で演じるので早く練習をしたいとか——。

しかし、いくら音楽祭でも学園でドラムスをやらせるだろうか。この頃のことだからやらせるかもしれない。

それなら学園にあるだろうから、それを使って練習すればいい。

少しでもうまくなりたいと思えば家にも練習用がほしいだろう。

ライバルがいるのかな。

家で練習すると近所迷惑にはならないか。

カールの部屋は車の通る道路に面しているから、それほど心配はいらないだろう。家族は少しがまんしなくてはなるまいが。

ドラムセットといえばかなり高価なものだろう。我が家にはぜいたく品ではないか。

無理せず払えるのなら、ぜいたく品とはいえないのではないか。

せっかく買つてもすぐに飽きて放つておくのではないだろうか。

いや、カールはそんな子じやない。もし最終的には飽きるとしても、しばらくの間でも熱中してやるなら、ぼけーっとテレビばかり見ていくよりいいのではないか。

いろいろ考えていると、とかく「買ってやろうか」という考えに傾いていく。
「ほんと? 買ってくれるの?」

自分に似た茶色の瞳を輝かせるカールの顔が目に浮かぶ。

今夜は、待ちかねた「西側」へ出られる。とにかく、バーバラともう一度よく相談して……。

日本人たちが城見物を終えて下りて來た。

カールシユテイン城の下のバスター・ミナルを出ると、ボヘミアの黒い森を抜け、高原地帯のなだらかな丘を幾つも越え、夕日に向かってバスを走らせる。國境に着いたのは予定より早い五時過ぎだったのだが

すぐ前にポーランドの車が停まっていて、厳しいチェックを受けた。全員降ろされ、床下の荷物庫は勿論、個人の手荷物まで全部開けて調べられている。

それに比べると日本人の調べはごく簡単だった。バスポートを集め、事務所で捺印して、返す時に一人ずつ、写真と顔を見比べただけ。

「東側」は出国や亡命に神経をとがらせているが「西側」は入つて来る者をさほど気にしていない。チエコスロバキアからの出国には手間どつたが、西ドイツへの入

国は、ポーランド人もあまり問題はなかつたようだ。

何の荷か、貨物を満載した大型トラックが、何十台もすれちがい、「東」へ入つて行つた。

国境からは、ゆるい坂道を谷へ向かってかけ下る。山の陰へ入つて行くのでどんどん日が暮れる。

ドナウ河の支流に出会う。この辺りは、ヨーロッパの河川の南流と北流の分水嶺だという。この辺りで降る雨は一キロぐらいの差で北は北海へ、南は地中海へ注ぐわけだ。あれ、ドナウは黒海だったかな。

真っ暗になつて、やつとバイデンの町に入った。この町は初めてだし、思いがけず雨も降り出したが、もうドイツ語が通じるから迷子にもならずに済む。

大通りのショーワインドウに明かるく灯がともり商品が山積みにしてあるのを見て、日本人たちは、喜びとも安堵ともしれない歓声を上げる。たつた五日間ほど統制經濟の國を旅行しただけなのに、そんなに心細かつたのだろうか。

ホテルに着くと、まずフロントから業務連絡をする。

「ハインツか、無事共産圏から出てきたか。悪いけどな引き続きヤーパンの面倒見てくれないか?」

「どこだ?」

「それがイタリー周遊なんだ、それも君がフランクフルトに帰る翌日からだ」
「というとアルプス越えに一日はかかるから家に寄る間も無いわけだが、まあいいよ」

「そうか、助かる。特別手当出すように言つとくから。
実はアルベルトに言つてみたんだが、同時に入つていた

アメ公の方がいいと言つて決めてしまったんだ。あいつ

住宅ローンがあるし、二人目が生まれるから、チップが

欲しいんだろう」

「そういえばヤーパンは運転手にチップをくれたりしな
いからな」

「だから特別手当出すって」

「分かった」

次にバーバラに電話する。

「ハロー、ああ、ハインツ、元気だった？」

「有難う、そちらは？」

「有難う、元気、あのね、ルドルフがね」

「えっ？」

「ルドルフよ」

「ルドルフ？」

「いきなり何を言つてんのだ、人の気も知らないで……

「そ、う、よ、足にケガして……、ひどいケガなの、さっき
ホーガース先生のところへ連れて行つて縫つてもらった
の、七針もよ」

猫の小さな足を七針も縫うのは、それは大ケガには違
いないが……。

出掛けの喧嘩のことは忘れたのか、多分忘れたふりを
しているのだろう。自分の方があやまるべきだとは思つ
ていないとするとちよつといまいましいが、まあ今度の
場合仕方があるまい。

「どうしたんだ？」

「どうしたのか分からぬから心配してるの。ホーガー

ス先生はね、刃物のケガだとおっしゃるの」

「刃物？」

「ええ、猫どうしの喧嘩ではないみたいだつて」

「どういうことだ？」

「前にね西の角のシュメッケビアさんが、猫を家から出
さないでくれ、って言つたことがあるんだけど……」

やれやれ、浮世のいざこざにはできればかかわりたく
ないものだが……。

「しかし、彼が？」

「まさか、とも思うんだけど」

「カールはどうしてる？」

「勉強してるわ」

「ドラムが欲しいから見せかけてるわけか」

「さあ」

「これからロマンチック街道とライン下りにつき合つて
火曜日に帰る予定だったんだが、たつた今、業務連絡で

次の仕事が入つてしまつた。ドラムのことは、帰つてからもう一度よく相談して……、と思っていたんだが、又
十日ほど帰りがのびた。どうだ？ あれは急ぐのか？」

「大丈夫、もうあきらめたみたいよ」

「あきらめた？」

「ええ、だつてハインツ、あなた、あの子にはぜいたく
だと思ったんでしよう？ だからそう言つて聞かせたの」
なんだ、解決してしまつたのか。カールのやつ、えら
く簡単に諦めたものだ。ねばりのない息子がはがゆい。
反対したのは自分だが、自分の居ない間に解決したのが
くやしいよう、買つてやれないのが淋しいような……

撫然とした氣持で皆のいる食堂へ行く。

ホテル・スタッドクルーゲの食堂は、スキー小屋風の
造りであった。丸木の窓枠、木造りのテーブルと椅子、
大きなストーブのまわりに金網を張つて、毛糸の手袋や
スキーキャップが引っかけてある。

「ハインツ、どこへ行つてたんですか？」

ニシダが立ち上がりて空いている席を教えてくれる。

「今夜は自由主義国へ帰れたお祝いに乾杯するんです、
あなたもどうぞ」

グラスを持たされ、ビールを注がれた。本當は、ハイ
ンツは、見かけによらず、又ドイツ人らしくもなく、飲
めないので、今夜は少し飲もう。明日の運転にさしつ
かえないほどに。

(おわり)